

示すものと全く同様であるが、只家の後方か南か又は西南である爲めに主要室及びエランダの位置が變つて居るのである、(第十二圖)の場合は家の横に空地が必要だし、第十三圖の場合には家の後方に空地がある。

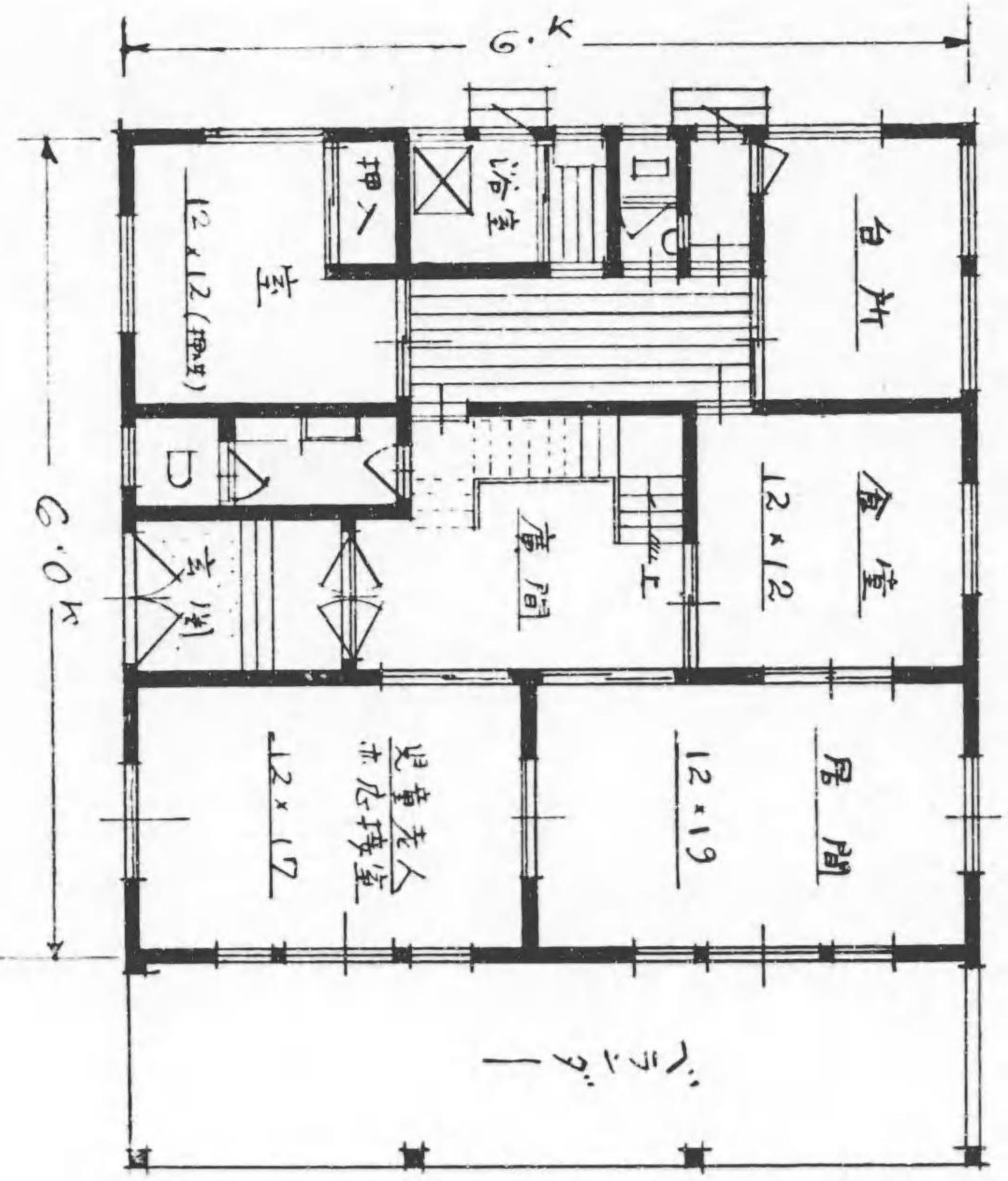
第十四圖 延六拾坪 二階建  
{ 階下 三拾坪  
階上 同

階下には居間、兒童室、女中部屋、臺所等を置き、階上には書齋、客間、寢室等六室を設く、

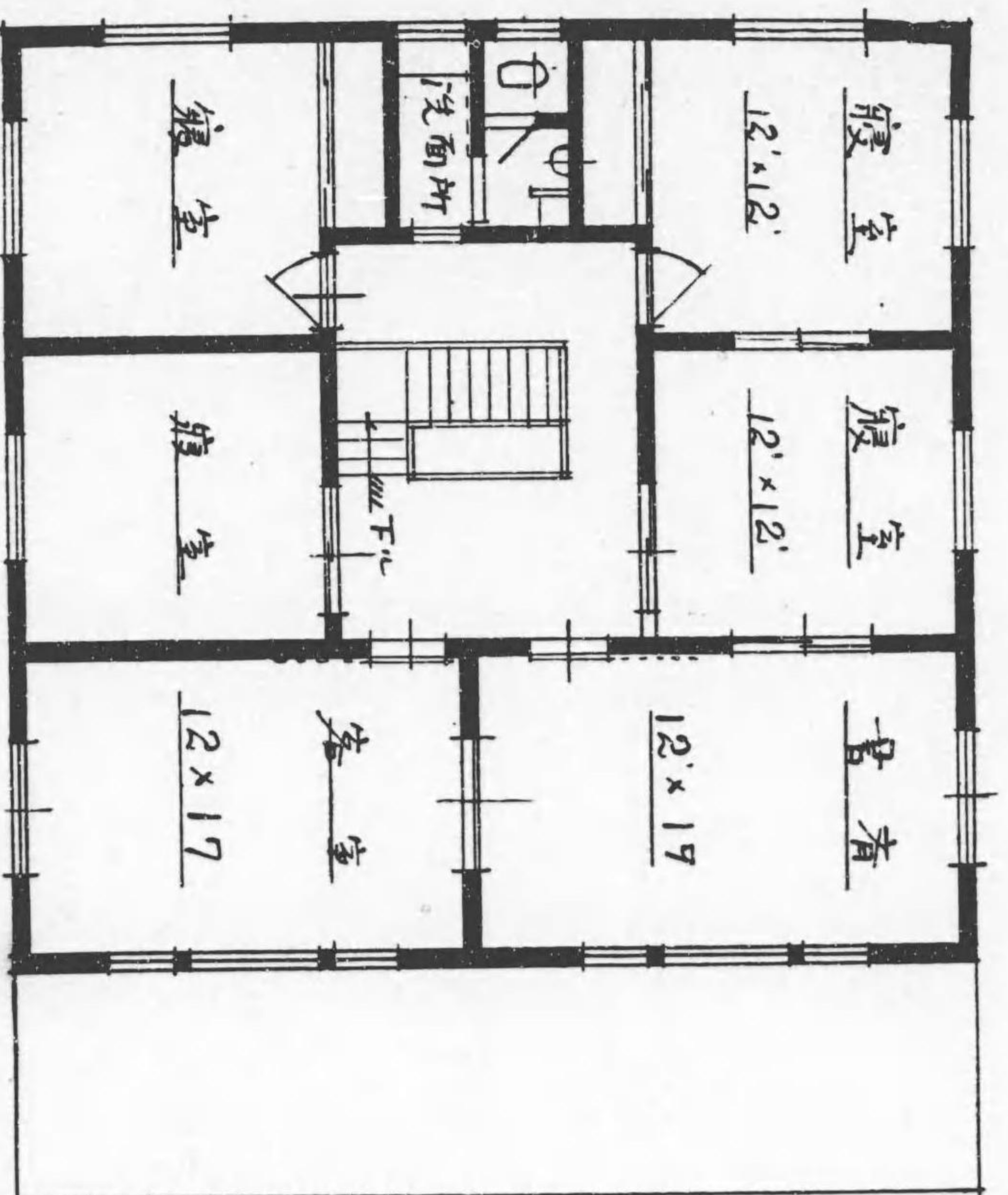
是位の大きさあれば可成な地位の人(標準をとるのに最も都合のよい官吏について云へば先づ勅任官あたり)でも特に訪問客や家族数の多い人でない限りは充分であると思ふ、一體今日地位ある人の生活法は散漫に過ぎる嫌がある。

公おんの用談もちを自宅へ持ち越したり、左程でもない客と特別の食事を共にしたりすることが多い、かう云ふ人にあふと住宅の觀念が甚しく亂される、地位ちゐある人が公的生活をコンパクトにして呉れ、ば家庭生活も亦おのづからコンパクトになり得る事であると思ふ、さて(第十四圖)の説明をしよう

先づ道路に面して車寄せくるまよせがある、車寄には供待のベンチを設けた、玄関の叩たたきから廊下かどに上ると突き當りに約拾坪の居間がある、是位の大きさあれば二つに分けて一つを食堂しょくたうに専用した方が片付いてよいとの説もあり得るだろうが、私は矢張り食堂を専用にする左程の必要を認めないし、居間の廣々ひろくとした方がよいと思ふから此の計畫のやうに居間ゐまの一部を食堂に兼用することの方を可なりと考へる、居間の側の兒童室のこと、及び其等の前のエランダのことは(第十二圖)について説明したものと同じ



才拾五園延七拾貳坪二階建階下三十六坪



水拾五園延七拾貳坪二階建 潛土三千六坪

だから略する、階上の書齋は接客にも兼用するつもりであるが別に隣に客間をも設けた、方向や庭園との関係は餘り上等ではないが、客間だから差支さしつかへなからう、相當な大きさの寢室が三つある、各々採光さくわうや通風はよいが中でも書齋の隣となりにあるのがよい、玄關の上に當る小室は洗面所に用ふるもよいし又は物置ものおきとするもよからう、配置圖はいちづに示すやうに、敷地は約貳百坪あれば足りる、ゼランダ前面の庭は一面の芝生と柵さくのきわに樹を植える、此の中に花の咲くのを交まじへると頗る心持よい眺が得られる。

第十五圖

延七拾貳坪

二階建

階下 三十六坪  
階上 同

階下に居間、食堂、兒童室、女中部屋又は書生部屋、浴室、臺所等を置き、階上には書齋、客間きやくまの外寢室四室及び洗面所便所を設く、

是は大體方針を前者に準じて、室数を増加した迄のものだから説明を略する。

以上に掲げた四つの計畫例は悉く總二階で、しかも間取が方形である、(第五圖)乃至(第十一圖)に示したのも多くは同じやうに角いものばかりである、之を見て讀者は甚だ無趣味な家じやないかと思ふかも知れぬ、が決してそうではない、間取りが單純でも、壁面に小凹凸を附すること、及び壁面材料や軒、屋根などの處理に依て、家の姿には如何やうの變化も與へられる、それは意匠するものの技量にある、間取りはなるべく單純にする方が各室の連絡上便宜であり、堅固であり、經濟である、小さな家で複雑な間取のものは姿が却て下品に流れ易い。

凡そ住宅は居間、寢室、臺所、便所を以て其の要素とし生活の程度に

應じて之に書齋、兒童室、客室、食堂、病室等を附加するのであるが、上流の大邸宅に於ては、日常殆ど不用な室をも備へ置く有様であるから、何れかと云はゞ、間取は贅物の配合のやうなもので、配置に眞劍味がなから計畫例を掲げることも見合はせやう。

### 二三 アパートメント計畫の例

都市内繁華な地區に於ける住宅は所詮アパートメントとしなければならぬものであると考へられる、歐米のアパートメントに關しては第一章に説明した、私は徒らに歐米の眞似をし度いのではないが、歐米に於け

る都市住宅がアパートメントとならねばならなかつたと全く同一の事情が我國の都市に襲來して居るのである、都市の繁榮に基いて起る都市住宅の不便、不衛生、不愉快、不經濟の解決の途は、大體に於て、一は市外に於ける田園都市と、他は市内に於けるアパートメントとの二つより外ないのである、歐米に於ては近來アパートメントの弊を叫ぶものも出來て來た、然しそれは田園都市を奨励せんとの趣旨から出たもので、繁榮地其物の空氣などが郊外のより悪いといふ判り切つた事を説明するに止まるもので、決して都市内のアパートメントを否定せんとするものではない、アパートメントも構造、設備が悪ければ弊がある、此の件は田園都市と雖も同様と思はねばならぬ、市民としては繁榮地に近く協力的に共同的に住むことの方が有利にきまつて居る、只それと衛生慰安上の

價値とを如何なる程度に交換し得るかといふ丈けの問題である。

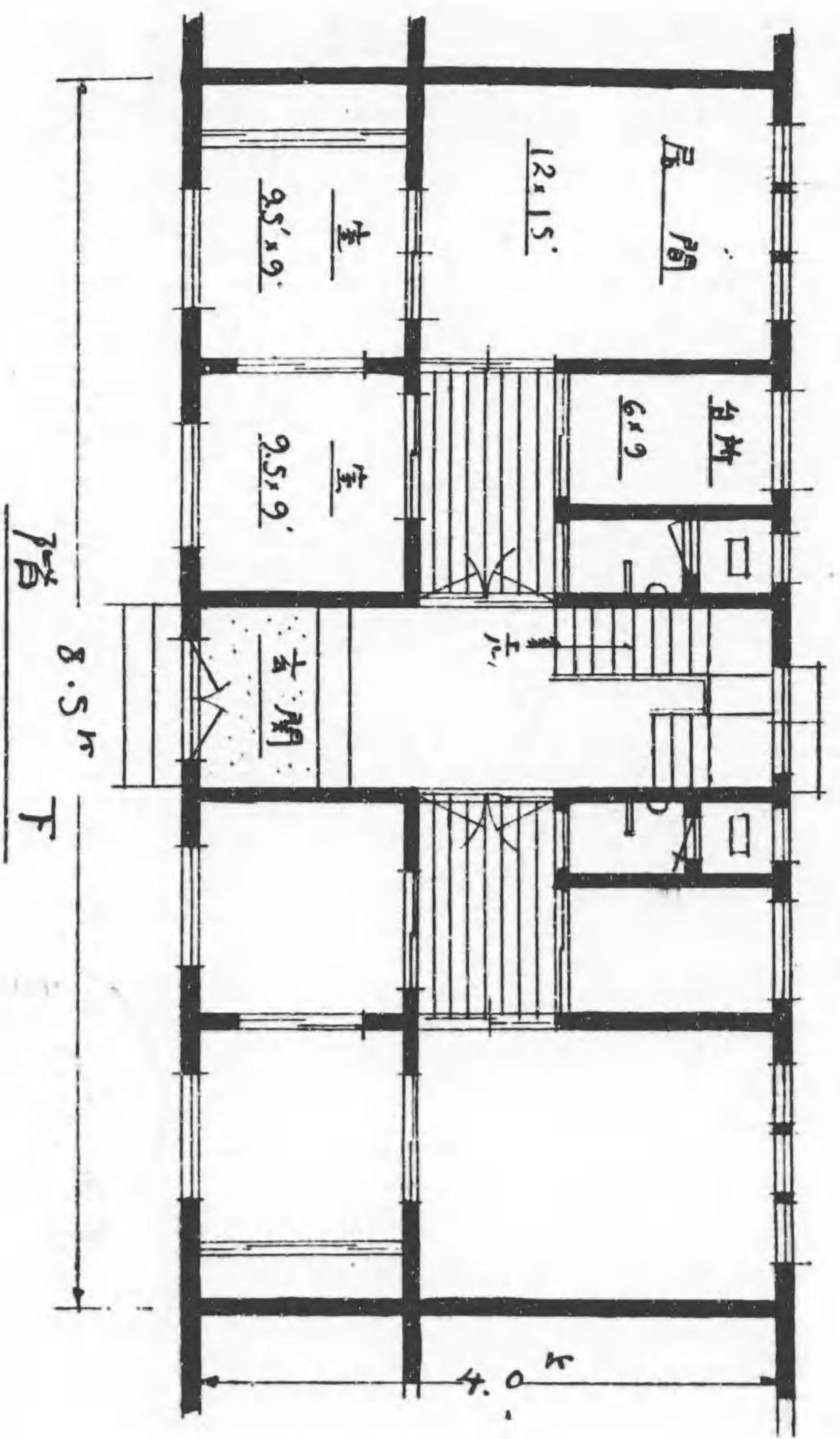
繁榮地は地代が高い、場末の數倍もする、従つて家は其の割合に準じて高く重り合ねば同一經濟で同一の光線が得られぬ、繁榮地に近い所の住居は否が應でもアパートメントとならねばならぬ所以である、但しアパートメントであるとなないと拘らず郊外程純な空氣が得られないことであり、又自然に接する機會も少ないことであるから出来る丈け之を埋め合せる爲の衛生慰安等の設備を整へるやうに努めることは必要である。

商業街路に面するものは第一階を商店とし、其上を住居とするやうな形式でなければならぬ、繁榮の地程、階數の多きは止むを得ぬ、繁榮地を遠ざかるに従つて階も減せられ得る、茲に三又は四階建の小家族（夫

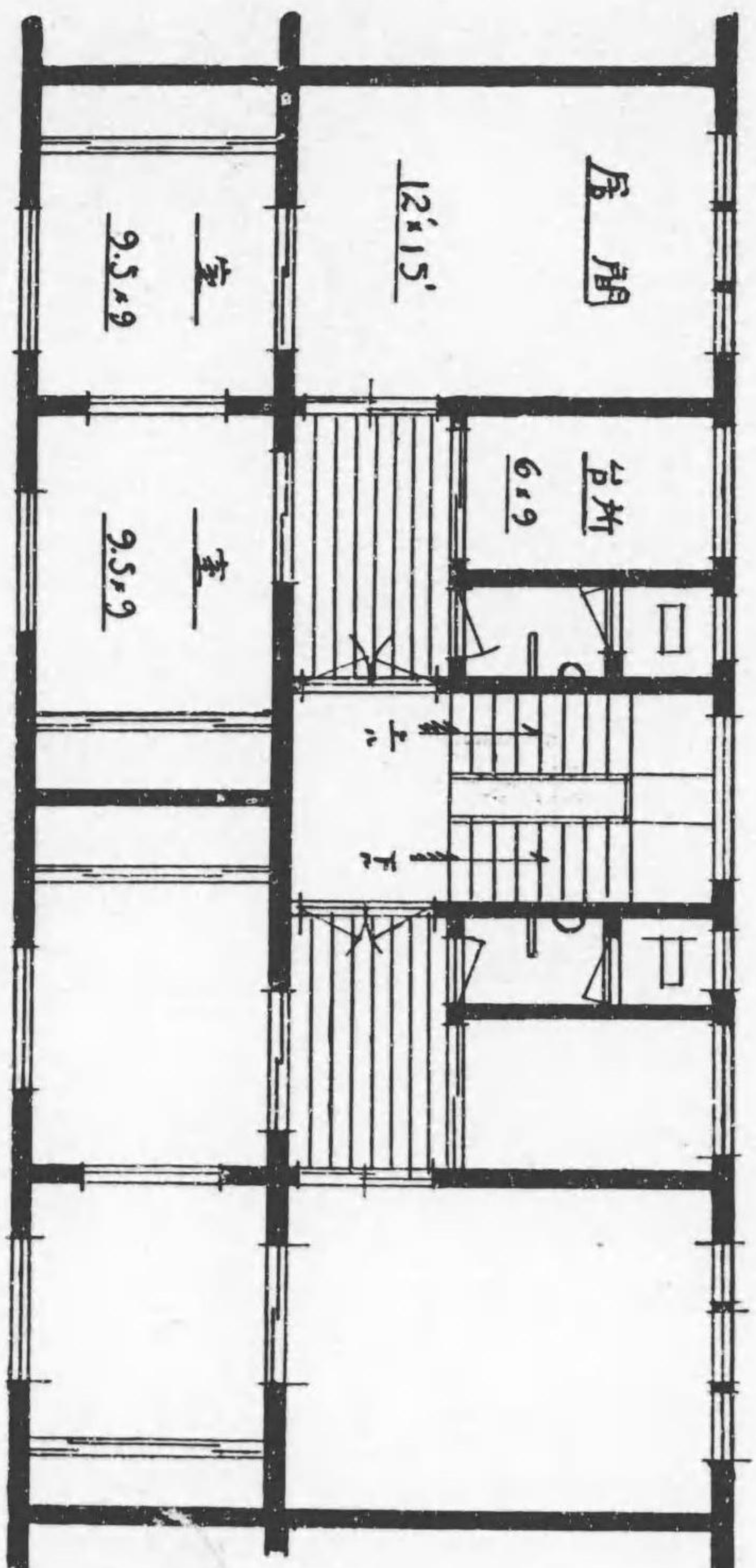
婦もの又は夫婦に小供一人位)用アパートメントの計畫例を擧げよう。  
 (第十六圖)は此種のアパートメントの一區分である、大體を鐵筋コンク  
 リート造とする、一區分の間には八間半、奥行四間ある、中央に階段一  
 個を付し之を界して各階は左右二戸づゝに分れる。

即ち一區分は三階建ならば六戸、四階建ならば八戸のつもりである、  
 尤も四階建以上の場合には階段室を少し廣くして段の間に昇降機を付す  
 る方がよい、便宜の爲め第二階目以上に就て間取を説明しよう、先づ階  
 段を登ると左右に扉がある、是は左右兩戸の玄關口に當る、扉を開いて  
 中に入れば茲は幅一間の廊下で、其の一方に便所及び臺所があり、突き  
 當りに居間がある、廊下の一方に表通に面して二個の寢室を設ける其一  
 は書齋にしても宜しい、室の大きは居間五坪、寢室二坪餘及び三坪で、

坪四十三坪建分區一同トレトパーパ族家小園六十坪



坪四十三坪建分區一同トシターパー族家小園六十米



二階 三階



一戸分の延坪は約拾六坪となる、地階（即ち地下室）には暖房機關室を置く、屋根上は平たいらにして之を屋上庭園とする。

建物の裏に相當大さの共同の庭園を設ける、居間、寢室に關しては先きに（第五圖）に就て述べたことと同様だから略す。便所べんじょは無論水洗式として下水に導くか、若し出来なければ裏の空地の地下に全然隠蔽した清淨装置きようじやうを設けてうは水を下水に放流する、臺所すんだうがすには水道瓦斯すいどうがすを設備すること勿論である、各戸の入口扉には特種の錠を附する、即ち中からは取手をねぢる丈ひらけで開くが外からは鍵がある様にして置く、以上は第二階第三階等に就て述べたのであるが、第一階に於ては大玄關の所、階段かたはらの傍に下駄箱りたばこを置く、茲でスリパー又は上草履とはき代へて各戸かくこに入る、下駄はいのことは住宅のみならず凡ての建築物の計畫に當つて我國では特種の事

項として考へなければならぬ、我國の共同家屋の不便の一は確に是にある、が、下駄のまゝで階に昇り各戸に入るとは建物を甚しく不潔ならしむるから、第一階で處理することにせねばならぬと思ふ。

大立關から真直に裏口を抜けて共同の庭園に出られる。

以上は繁榮地と場末との中間位に最も適するであらうと思はるゝ小家族用アパートメントの一區分であるが、之を必要に応じて左右に數區分連結することも出来るし、更に又之に準じて裏に左右翼を付けることも出来る。

### 二三 社會事業としての住宅計畫

事業家、教育家、宗教家、政治家、操觚者、其他凡て社會指導の任にある方々に是非とも考へて頂かねばならぬことは、社會事業としての住宅の計畫のことである、住宅と住者の身心との關係の密接なること、住宅は世の經濟事情のまゝに任せ置かれては悪化の進路を採るより外に途なきこと等は先きに第一章及び第三章に述べた通りである、而して現在の下層住宅界は如何に悪化して居るかといふことを茲に略説し、そして如何なるものが作られねばならぬかを述べて、讀者の深き注意を乞ひ度いのである。

住宅悪化の最も甚しいものは大都會殊に工業地である、細民部落は東京、大阪、神戸、横濱等何所にも大きな地區をなして存在して居る、細民研究者賀川豊彦氏の居住地たる神戸の新川の如きは其の大なるもの一である、私は自分のよく知つて居る東京の細民部落住宅の状況を述べて見やう、他の地方のも大同小異である。

東京市民が一人當り占有する住宅地面積平均は約五坪である事は第一章に述べた。然るに宅地面積の不平均は恰も富の不平均と同様で、一家にして數千坪を占有する富豪も多いことであるから、下層民の占有し得る宅地面積は如何に小さなものであるかは想像に餘あるであらう、若し全市民を富から貧の順序に列べ其の最貧即ち全人口の一割を探つて假に之を細民と名けたならば、此細民の宅地面積は自分の推定する所では、

一人當り一坪位のものではなからうかと思ふ、斯くの如くして細民二十萬の宅地と云ふものは實に狹隘至極のものである。

こんな程度の細民は大小の群をなし部落を作り、市内のあちこちに介在して居る。四谷鮫ヶ橋、下谷萬年町など云つたのは昔のことで、今や淺草、本所、深川各區の裏通りに充滿して居る、彼等の住居たる棟割長屋の一例を述べよう、茲に説明するのは震災前のものであるが震災後は實に益、甚しい、幅三間、長五間位の平屋建即ち約十五坪が彼等約十戸分の住宅である、長さに沿ふて之を壁で二つに仕切り（棟を界として二分するから棟割長屋といふのである）更に之を直角に六尺づゝに仕切る、斯うして表裏に間口一間、奥行一間半といふ區劃が十個程出来る、此の一區劃が彼等の一戸分の住宅である、此の一戸一坪半の住宅の構造は前

面に板戸を二枚建てる、窓といふものは一つもない、板戸を開くと其所に三尺の土間がある、土間の一部に板切を敷いて流し及び炊事場にする、それから約一尺程上つて一坪の所が即ち部屋の全部で、部屋は板敷の上うすべりに薄縁を二枚敷いてある、天井は無論ない、屋根は多くブリキ張りで中には柿苺の上に泥を塗つたものなごある、壁は落ちるにまかせ、柱は腐るにまかせ風は吹き込むし、雨は降るやうに漏る、加ふるに土地は何れも濕地、泥地で、年中じめくして居る、共同便所からも、下水からも汚物が溢れ足の踏み場もない位に不潔を極めて居る、かういふ部落の中ぶらつに行くと便所の悪臭も却て感じない位で如何に全體に臭氣が満ちて居るか知られる、僅か一坪半の一戸の中に一家族が居住するのであるが、矢張り家族數平均は四人に近いので中には五六人といふのも珍くない、二

夫婦が居るのもある、全體がこんな風だから、衛生もなければ風紀もあつたものでない、人心は荒みに荒んで野獸と撰む所がないと云つてもよいやうな状態にある、人間らしい住居に住居せねば、人間らしくなれぬ、社會を改善しようと思へば、どうしても凡ての住居を少くも人間らしき迄に引き上げてかゝらねば出来る相談ではない、こんな家があるからこんな人も出来るのである、是非こんな住居は世の中から消滅さして、そうして是に代はるに少くも人間のレベル内にあり得べき家屋を以つてせねばならぬ、彼等は是に相當する家賃が拂へぬのではない、拂ふ了簡がないのである、各都市に必ず存在する所の是等の細民窟整理は是非政府の力に待たねばならぬ、政府、地方團體、及び富豪の資力によるより外ない、即ち地區を整理して衛生上支障ない丈けの建築敷地となし、大小

の共同家屋、宿泊所、食堂、浴場、娯楽場、小公園等の設備を整へることである、先きに第三章に於て建築協會、組合、會社等のことを述べた、それは中流以上の人の爲めである、最下層住居の整理は是と相待て國民の文化上の急務であらねばならぬ。

無料又は有料宿泊所の慈善的に經營せられたものは數あるが、多くは二十疊乃至五十疊の疊敷大廣間で定員を一疊一人とし布團一枚を給するの類であつて、住居として改良せられたものないのを遺憾とする、室は餘り大なるは風紀上よくあるまい、半坪一人當りは狭過ぎる、疊敷は衛生上宜しくない、是非コルク床にし。掃除をよくし蟲のわかぬやうにせねばならぬ、殊に布團は毛布に代へて始終消毒するやうにしたいものである。

又獨身者アパートメントを必要とする、一室を三四坪とし之に一人又は二人を容れ、浴場、食堂、圖書室を附屬し住居外のものにも之を利用せしめるやうにしたい、又他に少くも二室を二戸とするアパートメントが必要である、夫婦ものの住居としては、どうしても居間、寢室の二室がないと人間らしい生活とはならぬ。

第六章  
構造論

## 二四 汎論

本章に於ては住宅構造の種類と方法を述べて簡単に之を批評しやうと思ふ。

建築構造の種類を大別すれば次の四となる。

第一木造 第二煉瓦石造 第三鐵筋コンクリート造 第四鐵骨造

是等の各々は又少くなく細分せられる、即ち第一の木造には和風木造、洋風木造、木骨煉瓦造、木骨石造、木骨コンクリート造、木骨土藏造等の種類があるし、第二の煉瓦石造には煉瓦造、石造、コンクリート塊造等の種類がある、第三の鐵筋コンクリート造には普通のもの、外に煉瓦

を混用せるものあり、鐵の大材を混用せるものあり、又鐵筋ブロック造  
なごと稱する種類のものもある、第四の鐵骨造には鐵骨煉瓦造、鐵骨石  
造、鐵骨コンクリート造等の種類がある、而して住宅に於て最も多く用  
ひられ從て考究すべき問題となるのは是等の内第一に屬する、和風木造  
洋風木造、木骨コンクリート造と第二に屬する煉瓦造と第三に屬する鐵  
筋コンクリート造及び鐵筋ブロック造等であるが故に是等に就て説明し  
やうと思ふ。

## 二五 和風木造

木造は云ふ迄もなく木材の籠狀架構を以て家屋の主體となすもの、總  
稱である、即ち先づ基礎を築造し、礎石布石を置き、其上に土臺、柱、  
間柱、桁等を以て壁體の骨を造り、梁、大引、根太等を以て床の骨組と  
なし、小屋梁、束母屋、椽等を以て屋根の骨組となす點に於ては凡ての  
木造は相似たものである、而して此中和風木造の特長とする所は次の數  
項に歸する。

(イ)壁體に於ては柱を室内に現はし其間に土の壁を附し外部に下見板  
を張ること



(ロ)室内の床は疊敷となし天井に薄板を用ふること

(ハ)屋内の間仕切壁を出来る丈かくして室の分界には唐紙を用ふること

(ニ)採光面は出来る丈之を大きく開き椽側、雨戸、障子等を用ふること

和風木造の構造は大體以上の通りであるが先づ之を經濟上から見ると、最も質素なものも出来れば又最も贅澤なものともなるといひ得る、即ち工費の點からのみ云へば、凡そ人の住むことの出来る家で和風木造程廉價に出来るものは他にあるまい、土臺、柱、梁、桁等凡て最も廉價なる材料即ち松殊に北海道産の如きを用ひ、其大きさも極度に節約するならば頗る廉價なものである、殊に東京の貸家普請と唱へらるゝ程度のものにありては、唐紙、雨戸の類に至る迄、よくも作れると思ふ程手軽な

ものを用ひる。此種の構造によれば、戦前物價の最も安かつた時分では延一坪二十五圓程でも出来た、戦後物價の最高の時分でも百圓位で済んだであらう、但し此程度のもものは、眞の間に合せ普請に屬するので、室内を少し強く歩いてみしく音がする、建具の建付けは直に悪くなる、壁は間もなく損じて隙間から風が吹き込む、基礎に狂を生じて家がまがる、暴風が吹けば危険になる、大雨には漏るといふ工合で住むに中々骨が折れること勿論であり實に不堅實極まつた代物である、そうかと思ふと又、和風木造には全然無意義に、何よりも高價なるものがある、所謂檜普請の類即ちそれで、柱、長押、廻椽、障子骨等主要材一切に木曾産の檜を用ひ、柱目、無節を撰び、其他床板、天井、唐紙、疊等悉く工藝美術品のやうに手数をかけて作ったものがある。今日では恐らく一坪一

千圓を要するであらう、そして其の結果はどうかといふと、火事には矢張りあふない、風にも地震にもあふない、夏涼しいでもなく冬暖かいでもない、總じて先きの一坪百圓格のものに比し故障が少いと云ふことの外には美しいといふ丈の差である、美しさの代價が約八割五分も占めて仕舞つて他の一割五分丈が實質上の家をなす部分ともいふべきか、誠に贅澤極まつた話である。

和風木造を建てるに、實質上注意すべき事項を挙げれば、先づ基礎の築造である、充分に搗き固めないで後日狂ひを生じて柱の或ものが多少沈下することがある、そうになると、建具類の建付が悪くなり、柱と建具との間に三角形のすきが生ずる、のみならず基礎の固くないことは耐震上にも宜しくない、次には土臺木を成るべく節約しないことである。

建物の内部の柱下にも凡て行き渡らしむることは建物全體を一固體に構成する上に必要である。又土に接近する所又は湯殿、流、臺所等水氣あふる所には檜又は檜のやうな腐蝕し易からざる材を用ふること、及び之に防腐劑を塗ることは些事のやうで家屋の保存に少からぬ効果がある。柱其他の材には多少小さいさな節があつても、少しも差支はない、無節材を強いて撰むにも當らぬがその工作に就ては注意を要する、兎角従來の大工職人には、切り込みを多くして大切な構造材を毀損するを念とせぬ風がある、平鐵、ボルト等の鐵物を澤山に使用せしめて木材の接合を強固にするやうにしたい、床梁又は根太等は一般に孱弱に過ぐる、振動を恐れて子供の走りまわるのを制せねばならぬやうでは悪い、又書齋の如く本箱を置く室は特に注意を要する、雨戸の溝は一般に淺きに失する、

僅かな加減で賊に對する用心をよくし得るのである、階段は勾配を緩くして幅を廣くすることにしたい。

## 二六 洋風木造

木材の籠狀架構を以て其主なる構造體となすの點に於ては和風木造と大差ないが、其の特徴とする所は、

(イ)壁體骨組の内部には木摺(三寸貫と稱する薄く狭き板)を打ち、其上を漆喰塗となすか又は壁紙を張ること、外部は幾分厚い下見板張となすか又は木摺を打ち鐵網を張つてセメント入漆喰塗とな

すこと

(ロ)室内の床は板張とし、上に絨氈、リノリウム、又はゴザの如き敷物を敷くこと、天井は板又は漆喰或は紙張となすこと

(ハ)室の分界には間仕切壁を作り、連絡には多く扉を用うること。

(ニ)採光のためには必要丈の窓(床の上二尺乃至三尺の高さに)を設置し、障子を用うること

等である、之を工費の見地から云ふと、最も質素なる和風木造の如く廉價に造ることは難しいが、然し構造用材は多く壁の中に包まれるから、所謂檜普請のやうな贅を盡すの餘地もない、上流又は寧ろ中流の上以上の住宅ならば工費に於て同じだと云へやう。

洋風木造を建つるに當つて實質上注意すべき事項を擧ぐれば左の通り

である。

(イ)基礎の築造を堅固にすべきは前者の場合に同じ

(ロ)柱其他の構造用材は多く隠るゝが故に其外觀には少しも顧慮する  
必要はない、強い耐久的なものさへ選めば宜しい

(ハ)床下、天井裏、壁體の内部等は包んで仕舞ふのだから自然通風が  
悪くなり、木材の腐蝕を速かならしむるやうの恐れがあるから、  
通風口に注意をしなければならぬし又温氣を受けやすい部分には  
防腐材を用うることを怠つてはならぬ

(ニ)室内も、窓、出入口が割合によく閉ぢられる上に、壁、天井等は  
多く漆喰で塗りつぶされるから、兎もすると風通が悪くなり易い、  
故に室内の通風孔を壁又は天井に適當に設けねばならぬ

(ホ)出入口の扉又は窓等に於ける締り鐵物又は錠前等は特に注意して  
選擇する必要がある、大工は未だ鐵物に注意する習慣が足りない、  
又鐵物の良品が日本には少い、従つて扉の取手などの故障は直に  
起り勝である

(ヘ)建具材は和風木造の場合と異つて伸縮あれば直に建付けに影響す  
るから狂ひ易からざる材にして且つ充分乾燥せるものを用ふるこ  
とが必要である

## 二七 煉瓦造

煉瓦造壁體に用ふる主要なる材料は、煉瓦とモルタルである、煉瓦は特種の粘土を固めて焼いた一種の焼物で、普通品は長さ七寸五分、幅三寸六分、厚さ二寸の大きさを有し、一本の重さ約八百目程ある、煉瓦は各地で製造されるが最も大きな製造所は、關東にありては日本煉瓦製造株式會社、關西にありては大阪窯業株式會社である。

モルタルとは、セメント一容積と、川砂三容積程とを混じ、水を加へて練り合せたものであるが、其の原料たるセメントは、石灰と粘土とを混ぜて焼いて粉にしたものである。セメント製造所も澤山あるが、其大

なるものは淺野、愛知、小野田等の諸會社である、各工場で作られたセメントは、樽詰又は袋入として販賣せらるゝ、一樽と云ふのは正味三百八十斤入をいふ。

セメントは水を混ずれば、約一時間後から固まり始めて、漸々固くなり、數日の後には軟石位の固さとなり、更に數週を経、數月に至れば硬石程固くなる、セメントに川砂を混じて用うるのは、例へばウキスキーに水を割つて飲むやうなもので、煉瓦を積むのに適度の性質に緩和する爲めである。

さて、煉瓦造家屋の壁體は、基礎を堅固に築造した上に、煉瓦をモルタルを以て接ぎ合せて積み重ねるのである、出來上りは、個々の煉瓦を以て強い堅い一と魂まりの石の箱のやうなものを作り上げやうとするの

である、斯くして箱が出来上ると同時に、床には木の梁を架け板を張るか、或は鐵筋コンクリートの梁及び板を架して、其上に木の板を張る、又屋根には木の小屋組を設置して木造のときのやうに屋根瓦や石板を葺くか、又は鐵筋コンクリートの梁及び板を架して屋上庭園にでも作る。

煉瓦壁はかなり厚いものであるが、厚さを呼ぶのに何尺何寸と寸法を以てするよりも、煉瓦の枚数を以てするのが普通である、即ち一枚の厚さは煉瓦一枚の長さ丈の寸法七寸五分を意味し、半枚厚さは煉瓦一本の幅、即ち三寸六分のことである、又一枚半厚さは煉瓦一本の長さど幅との和にモルタルの厚さ三分を加へた一尺一寸四分を意味し、二枚とは二本の長さにモルタルの厚さ三分を加へた一尺五寸三分のことである、住宅としては其の建坪、高さ及び室の大小に依ることではあるけれ

ども外壁には一枚半厚く又は二枚厚く、間仕切壁には一枚半の厚さを適度とする、煉瓦造と木造とを比するに、今日の處では其工費の點に於ては煉瓦造は遙に高價である、約六割位は高からう、耐久的、耐火的であることは勿論であるが、若し床其他が木造であれば是丈けは修繕の時期あることを豫期せねばならぬ、又屋根裏が木造であれば防火的に充分の防備をなすに非ずんば家が耐火的とならぬ、火に對して窓の用心も同様である。煉瓦造は木造に比して夏冷しく、冬暖かい、重量が重いから風に動くやうなこともないが、其の缺點とする所は、窓を甚しく大にすることが構造上不可なるが爲めに、動もすると採光不足になり易きこと、煉瓦は吸水しやすい材料でもあり夏期に室内が冷しひ故に、温氣を帯びるやうになり易いこと、も一つ重大なことは大地震の際に壊れ易いこと

である。

煉瓦造を營むに就ては、隣接建物に面する室には防火扉を設くること等に注意して置き度い。

## 二八 鐵筋コンクリート造

164

鐵筋コンクリート造は今や建築界の花形である、煉瓦造は漸く其の範圍が狭められた、木造は只工費の低廉なるが故に適用の廣範圍を占めてゐるが、其工費に於てさへ、物價の狀況に依ては續々鐵筋コンクリートの脅す所となつた、斯くの如きは實に此の構造の優秀なるに依るのである。

る。

鐵筋コンクリート造とは何か、を述ぶるに先だちコンクリート其物を説明せねばならぬ。

コンクリートはセメント一容積に川砂二容積と川砂利（大き六分目篩を通る位のもの）四容積程とを混じ水を加へて煉つたものである、即ちセメントを川砂で薄めた糊で小砂利を固めるのだと思へば宜しい、此の混合物を板の型の中に流し込むと、凡そ三時間後からそろ／＼硬まり始めて、一晝夜たてば型通りの塊が出来る、二三週間過ぎるとかなり硬くなり、一ヶ月も過ぎれば軟い石位の硬さにはなる、其後も日と共に除々に強さが増加する、斯くして出来たコンクリート塊はどんな性質を有するかといふに丁度安山岩のやうな石材と同じで、之を押しつぶさうとし

165

ても中々つぶれない、即ち所謂應壓強度が甚大である、然し引きちぎるには比較的容易い、即ち所謂應張強度が甚小である。

又鐵の細長い棒(直徑三分乃至八分)は兩端から壓せば割合に容易く曲るが、之を兩端から引けば中々ちぎれるものではない。即ち鐵筋はコンクリートに反して大なる應張強度を有するに依て長所があるが、應壓は其の短所である、鐵とコンクリートとを組み合せて兩者の短所を相殺し兩者の長所のみを完全に發揮せしめたものが即ち鐵筋コンクリート構造である。換言ればコンクリートと鐵棒との合理的配合に依て單一體たらしめたる構造である。

鐵筋コンクリートは基礎ともなり、柱や梁ともなる、壁、床、階段、天井、屋根、一として用ひられざるものなく、結局家屋全體を之を以て

單一體に鑄造することが可能である。或は又基礎、柱、梁等を鐵筋コンクリートとし、其壁體に於ては柱、梁等の骨組の間に煉瓦を以て肉となすことも差支ない、又壁體の外部には張瓦を施して之を煉瓦造に模し、若しくは石材を張りつけて、之を石造に見せしめることも自由である。

鐵筋コンクリート造の特長は

(イ)耐久、耐火、耐震的なること

(ロ)窓を如何に大きく用ひても強度に影響なきこと、又煉瓦に比し吸

水少きこと等のために衛生的ならしむるに容易なること

(ハ)工費の比較的高からざること

工費は木造に比しては今日の所約四割位の増加にて可ならんか、煉瓦造に比しては實質がよくつて却つて廉價なるを常とする。



鐵筋コンクリート造を營むに當つて留意すべきは、設計及び施工に細心の注意を要するものであることのために、殊に優良なる技術家に托することをなさねばならぬことである。

鐵筋併用ブロック造、最後に鐵筋併用のブロック造なるものを紹介しやう、鐵筋コンクリート構造が、耐火、耐震、耐久、衛生等の點に於て優秀なることが認められて居ながら、猶普及し難いのは、木造に比してやはり工費が高いのと、工期が長いとの點に存する、此の點を除かうとして企てられたものは所謂ブロックである、ブロックは内外に其の種類非常に多い、然し是迄のものは何れも成功とは云へぬ憾があつた、然るに數年前に鐵筋を併用するブロックが出来た、是は今日迄の單純なブロックに比し確に一頭地を抜く所の特長を有するもので、其設計及び施

工宜しきを得ば、工費と工期とを著しく減少するを得るものであることを信ずる。

第七章 住居衛生論

## 二九 光線と空氣

光線の這入らぬ家には醫者が這入るといふ諺があるさうである。光線即ち衛生と呼ぶ衛生學者もある、住居に日當りを思はぬ人もなからうけれど、如何に健康との間に重大なる關係あるかを痛切に感じてをる必要がある。世に日光と衛生状態との關係を調査した書類も少くはないが、茲に頗る適切な一例を擧げることしやう、それは嘗て瑞西國ベルン市内の或る町に於て、日光に面した家（即ち居間が南に向つて居る家）と日光に反した家とに就て調べた住居人の死亡統計であるが、それに依ると日光に反した家の居住者の死亡率は、面した家の居住者の死亡率に比

して三倍以上の多きを示して居る、尙病氣の種類について云へば、

肺	結核……三・五倍	其他の肺病者……二・五倍
腸	チブス……五・四倍	腦疾患……四・〇倍
赤痢	……二・〇倍	生後直に死亡せし小兒……四・六倍
癩麻質斯及心臟病	……四・三倍	胃腸病……三・六倍
急死	……二・九倍	老衰病……一・三倍

以上の通りである。日當りの悪い方に居住するものは多く貧困者であらうから、日光以外にも悪い作用が加はつて居るものと考へなければならぬが、然し其の倍數の餘りに大なるに驚かすには居られぬ、又遠山醫學博士が、嘗て山形縣立中學校と師範學校に就て生徒の健康調査をなし、師範生の中學生に比して肺疾患の非常に多い原因を全然其建築の差に歸

せられた、即ち中學校校舍寄宿舎の日光充分なるに比して、師範學校校舍寄宿舎の甚しく日光の不充分なるに原因すと斷じられた、先に掲げたベルン市の例より推しても其の然るべきを思はしむるのである。

我國に於ては結核患者は年々増加するさうである、之を助長するものは日蔭であるとすれば、我々は住居の日當りを益々良好ならしめて、我々の健康を増進するの途を講せねばならぬ、殊に學校教師の三割は該患者であると聞く、國家の要職にあるもの、殊に第二の國民に接近するものがこんな事では國の前途を如何にすべきかといふ感が起らざるを得ない。

關西地方には茶道に毒せられた薄暗い住宅が少くない、此の弊は北陸地方にも及んで、金澤附近には殊に暗い家が多い、金澤は日本でも有數

な肺患者の多い土地だと聞く、成程どうなづかれる。又東北地方では寢室を暗くして置く習慣がある。是は夜間用ひるが故に光を要せずとの觀念からであらう、然し光線の必要なるは、明の必要なるではなくして光の作用の必要なるのである、寢室の如きは却つて益々光線を多く取るの必要あるを忘れてはならぬ。

居間、寢室を日當りよくすべきは勿論であるが、接客室のやうなほんの一時の使用に供するものをのぞいては、家屋の凡ての部分に日光を得たい。殊に居間、寢室等は東及び南の日當を可とする、大きな建坪の家屋に於て、凡ての室に日を當てやうとするのには、家の向を正南とか正東とかとせず、東南とか西南とか云ふやうに斜に向けるを可とする。

室の大きさと採光面積、即ち窓の大きさと割合の最小限度に就ては諸

説ある、是は光線の作用といふよりも寧ろ主として必要なる「明るさ」ということから考へらるゝのである、昔に比すれば文字も甚しく細になつた、仕事も又デリケートになつた、全體として家は昔より明るくなければならぬ、暗ければ不潔にもなり易く、不快でもある、工場に於ける明暗と事故数との関係の統計などを見ると、明るさの必要が痛切に感じられる、室の面積と窓の面積との比の最小限度を、法を以て制定して居る所が少くない、國に依つて必しも同じでないが、諸外國では窓の面積は室の面積の一割乃至二割の範圍で其の最小限度をきめて居る、我國の市街地建築物法施行規則では一割を限度として居る。

序に電燈のことを述べて置かう、居室や仕事室の暗いことは眼に甚しく害あるのみならず腦を勞からすこと甚だ大である、殊に臺所などは餘

程明るくして置きたい、書齋は机の上丈けが明るければ間に合ふが、他の室は全體を明るくせねばならぬ、客間などこそ却つて薄暗くとも差支はあるまい。

空氣の流通を必要とすることは敢て説明の要もあるまい、洋風の家屋に於ては室内の換氣孔に注意を要する、和風家屋でも寢室には夏期ゆるやかな通風が出来るやうにして置きたい、それには壁の最下部に高さ約一尺長さ約三尺の無双窓を設け置き、少量の冷氣がおもむろに入込み得るやうにすることである。夏期密閉せる室内にあることの不快なるは、空氣中に炭酸瓦斯の蓄積するためよりは寧ろ空氣中の溫度が上昇して身體からの水蒸氣の發散を少くする爲にあるといふことである。

### 三〇 汚 水

空氣には適度の濕氣を要するが、土地の濕潤なることは甚だ害がある、殊に床下に注意を要する、敷地排水のことは既に第二章に述べた、臺所や湯殿で用ひた水は建物から遠くへ直に、残らず、之を排出せねばならぬ、排水溝は決して之を等閑に附してはならぬ、不浸透質のもので作つて相當の勾配を持たしめることが肝要である。

水道のある土地にては問題が少いが、井戸水を用ふる所では之を清淨に保つことに餘程の注意を要する、即ち井戸の位置は不潔の場所を遠ざけ、地表の水が侵入しないやうな構造となすことが必要であるし、又雨

水や塵芥が飛び込まぬやうに密閉して置かねばならぬ。

日本の便所は誠に困つたものといはねばならぬ、有毒瓦斯の發生所であり、有害バチルスやうしよくじよの養殖所やうしよくじよであり、又之を傳播する所の昆蟲の養殖所である、歐米に於ても昔は日本と同じく家の中に壺に貯へたものであるし、又時々運び出しては肥料として用ひたものである、然し文明國に於て今尙壺に貯へて置く所は、日本を除いては餘程の田舎でなければあるまい、日本でも都會に於ては、衛生の上からは勿論、經濟の上からも搬出費の上がるにつれ段々堪えられなくなる時期が來やうと思ふ。兎もあれ出来るならば家の中に壺に貯ふことは止めたいものである、即ち所謂水洗式便所すゐせんしきべんじよを用うるやうにしたい、水洗式便所には壓力のある水が必要である、水道のある土地では之を利用すればよい、量は僅少で間に合ふ、

水道なき所では、高所に水槽を置き、ポンプで水を上げて置く、又水洗式便所から排出する汚水は、完全な下水があれば直に放流することを得る譯であるが、東京にさへ未だ完全な下水が出來て居ないことだから、當分は直ちに放流し難い、即ち家屋外に汚水處分を設備する必要がある、汚水處分装置には種々な方式があるけれどもどれも大同小異で、一家族用ならば約半坪乃至一坪の土地と、工費三百圓乃至五百圓もあれば宜しい即ち地下に溜舩たまりますを作り、汚水を導き入れて發酵せしめ、バクテリア同士の戰爭に依りて分解せしむるやうに作られるので、装置の一端から出る上水は衛生上何等の差支ないものとなる、故に之を普通の下水に放流することが出来るのである。汚物は殆んど分解し盡さるゝから装置は年一回又は數年に壹回位外掃除しなくとも宜しいし、臭氣も少い、城口氏發明

の大正便所と稱するものは、在來の和風便所と水洗式との中間に位するもので價の割合に衛生上の支障少いものと思はれる。

### 三一 暖房

洋風家屋に適する暖房装置の種類を挙げれば瓦斯、電気、置ストーブ、壁付暖爐、簡易空氣暖爐、ペチカ、蒸氣暖房、溫水暖房、空氣暖房等ある、小さな家ならば瓦斯ストーブは簡便であらう、只注意すべきは、ストーブ小なりと雖も煙突を附することを決して怠らざるべきことである、電氣暖房は、客間のやうに少時間使用する所には最も簡便であるが、

經費が多くかゝる、置きストーブは、室が不潔になり易いばかりでなく、小兒などに危険であるから考へ物である、が中には獨逸製「エンカー」のやうに頗る經濟的でもあり優秀なるものもある、壁付暖爐は體裁も心持もよいが、石炭の消費量が中々少くない、簡易空氣暖爐といふのは、地下室に設置して茲で石炭を炊き空氣をあたゝめて管を以て眞直に階上を送り、壁に設けたる孔から室内に通せしめるのである。米國の田舎の小住宅に盛んに用ひられて居る、頗る經濟にして簡便な装置である。只住宅が小にして間取が極めて簡單なる場合でないとは適用しにくい、ペチカは露西亞式のストーブである、獨逸ストーブ（カツヘルオーフエンとも云ふ）は中空軸掛の煉瓦を以て角又は丸形に作りたるストーブで、煙道はストーブの中を數回左右上下して後に煙突に上るやうになつて居る、燃



料としては多く煉炭を用うるのであるが、之に點火し略赤くなつた所で炊口を締めて置くと、熱氣がストーブの中の煙道を左右上下してストーブの外壁を暖める、室に餘り換氣を付けなければ、小室では朝一回十本程の煉炭を入れ置けば翌朝迄は寒くない、誠に經濟である、然し容積が大きいのと室に通風をよくすると能率が悪くなるのとの缺點がある。延坪百坪以上の家屋で室の半分以上を常に使用するものならば、寧ろ蒸氣又は温水煖房が最も便利であり經濟である、即ち地下室にボイラーを置き、鐵管を以て蒸氣又は温水を室内に導き、室内の放熱器に連絡するのである、ボイラーには一室に石炭を投入し置けば自動的に燃焼の度合が加減されるから人手を要しない、蓋し煖房としては最良のものといはねばならぬ、温水煖房装置としては「ラデオ」「ラデックス」「アルコラ」など

稱する小住宅用ボイラーがある、装置の費用は、一坪當り二十圓乃至三十圓位はかゝらう、然し先きに述べたやうに檜普請に贅を盡すのに比したら斯の種類の贅こそ上流者のなして然るべきことではなからうか、和風家屋を完全に暖めやうといふことは殆んど能はぬ、餘り熱の逃げ場所が多いためである。何を装置しても其装置した場所小範圍丈が温いのみで廣く行き亘り難い、寒地に一般な炬燵なるものは心身に及ばず影響を別問題として只身を温めるといふ點丈から云つたら、實に最も簡便のものといふはねばならぬかも知れぬ。

### 三二 庭園

庭園といへば、人は築山、泉水、又は藪蒼たる植込を連想するであらう。空地甚だ大ならばそれも宜しい、然し空地が大ならざる限り、斯くの如きは望ましくない、寧ろ兒童が心持ちよく運動するに適するやうにしたい。築山、泉水は眺めるには宜しからうが兒童がのび／＼と走り廻るには適しない。殊に茶庭と稱するものは幽邃の趣をのみ得やうとする結果、濕潤にして寧ろ憂鬱の氣に充ちる、昔のやうに戶外へ出れば、何所でも日の當る所計りといふ時代には、家の一面が幽邃でもよかつたろうが、今日のやうに日光を求めねばならぬ時代には相應せぬ。殊に京阪

地方のやうな空氣の乾燥した所で發達したものを、東京地方のやうな濕氣の多い地に於て模すると、更に濕潤にして憂鬱の氣分を増す、要するに從來の庭園といふものは光線をさへぎり、濕潤ならしめ、運動をさまたげ、人間の心持を小規模ならしめるものやうに思ふ。自分の考へでは、空地は出来る丈け廣々と之を保持し、其の周圍と所々に高い木を植え、以下は一面の芝生として家族の遊場の用に資したのである。私は嘗て茶道排斥論なるものをしたことがある。今日の茶道なるものは人間の心持を小規模ならしめる嫌があるのみならず、住居衛生を不良ならしめる憂があると思つたからである。

今日家を建てるのに易者又は家相家なるものに設計上の意見を聞く人がある、易者又は家相家は陰陽五行の道を振り廻して色々の意見を提出する、聞く人は種々の事情を犠牲として彼等の説を容れる、實に滑稽至極と云はねばならぬ。斯様な人が知識階級には少くないのが不思議である、試に彼等の最も忌む所の鬼門の説なるものを紹介せん、曰く「東北の方向には鬼の住む石室があり、其の前に門がある、萬鬼此門に出入する、其所に青い火が燃えて居る、此故に茲に便所、土藏等を置くべからず」などと説くのである、今日の社會は論理的社會であるかと思へば一方に

は此説を首肯する人もある、又曰く「東北隅は木、火、土、金、水の中の土に屬する、由來土と水とは友としよからず、故に此の部分に水氣あるもの、即ち便所浴場などを置くことは不可なり、又茲に土藏を作ることは、土の上に土を重ねるから土氣が強過ぎることになりて不可なり」などと説くのである。御伽話以上には受取れる譯のものでない。

敷地内には地勢に依て排水し易き位置もあれば、易からざる位置もある。又土地には固有なる常風の方向がある、若し家が四角なら四角の隅は四隅の中では最も温度の低い所であり、西南の隅は最も温度の高かるべき所である。兎に角、室の排列は敷地の状況及び方位と關係して定められねばならぬことは勿論であるが、然しそれは陰陽五行筮竹を以て決すべきではない、須く科學に基礎を置いて之を判斷すべきである、餘り

に判り切つた事のやうではあるが、餘りに判りきらぬ人が多いから一言した次第である。

## 第八章 住居保安論

### 三四 火 災

住宅は家宅の外廊がいくわくであり保護體である、之を破壊はかいせんとする所の外力に對して少しの不安もないやうに進化せねばならぬ、家屋破壊力の最も恐るべきものゝ一つは火災くわさいであらう。

火災の原因は何か、一言にして盡せば「火に對する不注意ふちうい」である、如何なる點に付ての不注意かを知る爲めに、火災原因の統計を示さう。大正七年以降五ヶ年間の東京市内火災原因の百分比中、主なるものを摘出すれば次の如くである。

吸 殻……………六・〇プロセント 電 氣……………八・〇プロセント

炬 燧……………六〇〇 — 煙 突……………一〇〇〇 —  
 灰……………六〇〇 — 竈……………六〇〇 —

又地方の事情を知るために、東北六縣より材料を得て大正五年以降三ヶ年間の平均百分比を作つて見たら左の通りになつた。

爐又ハ竈……………一三〇〇プロセント 小兒の弄火……………一二〇〇プロセント

焚 火……………八〇〇 — 炬 燧……………六〇〇 —

取 灰……………五〇〇 — 提 灯……………四・五 —

洋 燈……………四〇〇 —

又以て参考とするに足りやう。但し地震、兵亂等が大火災の原因たることは言を要しない。

火災の損害は社會から云へば絶対的である。營業上の損失や盜難によ

る損失のやうに他に之を獲得するものがない。火災保険も社會の損失の補償とはならぬ。

日本、本土には毎年約一萬七千回の火事がある。即ち人口三千人の土地に於て年一回の割合となる、此の割合は都會に於ては少くなり、田舎に於ては多くなる。焼失家屋總建坪は一ヶ年約六十萬坪、一回平均三十五坪である、尤も此の割合は都會に於ては多くなり、田舎に於ては少くなる、而して損害價格は、一ヶ年五千萬圓即ち人口一人當り年約一圓に近い、但し是は家其物丈の價格であるから家具を加ふれば、恐らく一人當り一年約貳圓位にならう、以上は直接の物質上の損害であるが、火災に依る無形の損害は實に少くない、日常の心配丈けでも大したものといはねばならぬ。

火災を通常の場合に擴大せざらんがためには、消防設備が肝要である。消防設備の最も簡單なるものは消火器であるが之に液體と粉末との二種ある、液體消火器とは、罐内に炭酸曹達水を入れ、上部に流酸を詰めた小壘を釣るしたもので、いざと云ふとき此の壘を毀すか覆すかして硫酸を炭酸曹達水に混すれば、直に多量の炭酸瓦斯が発生して水を壓出し、同時に炭酸瓦斯も飛び出して共に火を消す作用をなすのである、粉末消火材料は、重炭酸曹達と他の粉末との混合物であるが、いざといふとき此の粉を火中に叩きつけると、熱のために不燃燒瓦斯が直ちに多量に發生して火を消し止める、石油、揮發油等油類の發火に對しては粉末も有效であるが、寧ろ何種の發火に對しても有效なるは四鹽化炭素であらう、でないとうまく消えぬ、公共的消防設備としては、手押ポンプはなきには優

るけれど今日は動力ポンプの時代である、蒸氣ポンプよりもガソリンポンプが更に有效である、ガソリンポンプは自働車とポンプとを一所にしたもので、速力も大であるし止まれば直に強力のパンプとなる、尤も小形のものには手曳のガソリンポンプもある、ポンプ一臺の價は高いやうだが一回の火災に效を奏すれば何倍かの價を立所に償ふこととなる、火災防備上、都市に於て水道の必要なことは説く迄もなからう。

火災は消防設備にのみ之を委ねて安心して居ることは決して出來ない、ボヤは常にある、暴風は時々吹く、ボヤと暴風と時を同じうすれば火は容易に擴大する若干擴大したら消防設備も遂に信賴し得べからざるに至るを常とする、そうなつては是非とも家屋構造上の防備に待つより外に安心の策はないのである。

家屋構造上の防備の第一は屋上の防備である、屋上について最も心痛すべきは東北地方一體であらうが、東北地方の屋上は茅又は藁が最も多い、恰も屋上に火口を戴いて火を迎ふるの感じがある、暴風に際しては火は意外に遠くへ飛ぶ、毎秒十米の風速のときは十町先の風下も危険である。毎秒二十米の風速のときは二十町先迄も警戒を要する、屋上に火口あるときには近くにも遠くにも飛んで第二、第三の火元を造り、遂には新なる火元が數十ヶ所を算する様になる。如何なる村落に於ても屋上丈は是非各自に不燃材料を以て葺くことにしたい、不燃材料とは瓦、石板、石綿盤、金属板等の類である、屋上の防備に亞で必要なるを屋端の防備となす屋端とは軒先及び破風の部分を云ふ、飛んで来た火は屋根に止らなくとも轉じて樋にたまり軒先を犯す、殊に屋端には附近の火事

の場合に引火性、發火性の瓦斯がたまるのである、元來木材の性分中には炭素が約五十プロセント、水素が約六プロセント、酸素が約四十二プロセントもあるが、攝氏百度位に熱せられると水分を可なり失ふ、攝氏百五十度程に至つて一酸化炭素、炭水化合物を發散し、攝氏二百七十度位から盛に發火性、引火性瓦斯が發生する、是等の瓦斯が附近から來て軒先に充満し、更に屋根裏に入り込んだ所で引火又は發火することが類焼の最も多い例である、故に屋端も亦不燃質の材料を以て被包することが肝要である。被包には金属板、漆喰、セメントモルタル、コンクリートの類を用うるを可とする、壁體が煉瓦造でも亦其の屋根が瓦葺であつても、屋端が防備されて居なければ木造とあまり違はない、壁體が煉瓦であることの效を發揮する暇のない内に、早く既に屋端が犯されるといふ



ことになる、煉瓦造の焼失の例は甚だ多いことであるがその多くは此爲である。

屋端の防備に亞いでは壁體、窓、出格子、物干臺、其他火の粉の吹きつけ易き所及び火の粉の停滞し易き所の防備である、是れが爲めには、家屋全體を所謂防火構造（又は準耐火構造と云ふ）となさねばならぬ。防火構造とは大略左の程度のもを云ふのである。

- (イ)木造家屋の外部を、セメント、モルタルかコンクリート塗となし或は塗下地に瓦を用ひ又は塗上に張瓦を施し、其厚さ合計一寸二分以上のもの。
- (ロ)木造家屋の外部を、厚さ三寸以上の石又は煉瓦、人造石の類を以て被包せるもの

(ハ)土藏造にして塗土、漆喰等の厚さ合計三寸以上のもの  
其他窓も隣屋に接近して居る場合には簡単な防火扉を設けたい、木造家屋の外部にコンクリートを塗らんとするには川崎式又は大橋式と稱する鐵網を下地に用うるを可とする。

以上のやうな防火構造でも、猛火に出合つては矢張り燃焼を免れ難い、絶対に安心しやうと思ふには結局所謂耐火構造に依るより外はない、耐火構造とは壁體に於て煉瓦造、コンクリート造、鐵筋コンクリート造等にして屋上、屋端その他突出物など凡て防火的に被包せられ、室及び入口等の防備も完全なるものを云うのである。

大地震は火災に比べると極めて稀に外起らぬのではあるけれども、一旦起つたとなると、有らゆる工作物を一時に襲撃して多数の人命に危害を加へるのみならず、殆ど常に火災を發して災害を數十百倍するのである。大正十二年九月一日の關東大震火災は實に有史以來の大慘事と云つても敢て過言ではないであらう、我國は實に世界中で地震の最も多い國であり、昔から災を蒙ること數知れない。

地震は地殼の突然の破壊に依て起る所の振動である、破壊は地殼の表面に起ることもあれば、又地下内部に起ることもある、陸地に位置する

ことああれば、海底のこともある、地殼破壊の主なる種類を擧ぐれば、地層の陥没、折斷、剪斷、滑動及び火山爆發等である是等の破壊即ち地殼の變動は要するに地球が過去何億年前か計り知るべからざる昔、雲霧なりと云はれたときから將來何億年か計り知るべからざる後に、月の如き死體となるべしと云はるゝに至る變化の行程たる現象に外ならぬ、是等直接の原因の外に間接の原因がある。即ち地殼中に破壊的潜勢力が蓄積せるとき、之を誘導して破壊の機會を得せしむる作用がある、例へば月の運行、潮の満干、氣候の高低等は是れである、而して地殼破壊の場所即ち震原は、火山爆發の場合のやうに一小局部のことあり、又は陥没による場合の如く一大地域たる場合あり、又殊に最も普通に起る所の地層の剪斷や滑動等の場合のやうに長い線であることもある。

地震の強さは測候所や氣象臺から發表されるものには多く微、弱、強、烈等の文字で示されて居るが、専門的には〇・一、〇・二、〇・三等の指數で呼ばれる。俗に云へば一割の強さの地震又は二割の強さの地震などと云ふの類である。是れは、物體を横に倒すに要する力の觀念から來たもので、一割の強さの地震といへば、其附近に於ける凡ての物體は自己の重量の一割丈の横力を以て倒されようとしたといふことに當る、實例で云へば、明治二十四年濃尾の地震のとき、岐阜、大垣邊に於ては強さ約三割、名古屋に於ては強さ約二割五分、濱松、豊橋邊では強さ約二割といふの類であり、又大正大震災に際しては東京附近は二割前後、横濱附近は三割前後、相模灣の周は四割前後と推定せられるのである。我國は昔から随分強烈なる地震に度々見舞はれて來た、震災豫防調査會で編纂し

た大日本地震史料によると、慶長以後二百六十年間に激烈な地震が三十回もある。是れによる家屋潰滅數は四十萬戸を超えやう、維新以後家屋を潰滅した程度の地震數は約四十回ある。日本は地震の多い國であるのに日本の大都市は又地震の災害を蒙り易い様な土地に多く發達して居る。地質の軟なる所は振動が大きいのであるが、大都市は水運の便ある所に發達する關係上、何れも軟なる地質の所にある。東京、大阪、横濱、名古屋等皆然りである、故に都市殊にその下町は、何れも地震に關して警戒すべき所と考へて宜しい。又都市には更に警戒を必要とする事情がある、それは都市生活なるものは人工的且つ密集的生活である點に存する。則ち大正震災に依て深酷に經驗せるやうに上下水道、電車、汽車、瓦斯、道路、橋梁、百擧の工作物網に支持せらるゝ生活であるが、地震

に依て一朝是等の工作物網が破壊したら實に恐るべき結果を來すのである。地震の際には必ず火事が起る、獨り大正地震のみではない、安政江戸地震や、米國加洲地震等でも是がために災を増加したこと甚だ大であった。

家屋が破壊せず又焼けもせぬやうに出來て居つたら、都市工作物網が破壊した場合と雖も市民の蒙る災害は著しく輕減される、況んや地方町村に於ては、地震の災害は家屋の構造宜しきを得ば、之のみによつて全く惨なさを得るであらう。

家屋耐震構造の要は、震力及び其の作用を可及的に小ならしむることと、之に對する抵抗を充分に大ならしむることを期するにあるが、家屋は其の大きさ、材料及び構造の種類、又は地質等に依て、之を耐震的な

らしむることに難易がある、左に材料構造の種類に應じて耐震的手法を記さう。

木造は平屋建にして大ならざる場合には、之を耐震的ならしむること一般に容易である、洋風家屋の如くに壁面の多いものは筋違（柱、梁等の間に斜に設けらるゝ材）を使用し得べき餘地が充分あるから殊にやさしい、然れども層が重なるに従つて困難の度が急に増加する三層以上に及ぶときは容易ならざるに至る、尤も塔のやうな桑構造物は別である。

和風木造は昔からの經驗上、耐震的に發達して居るなどと云ふものがあるが決してそうでない、構造手法は餘りに體裁を尊び過ぎて房弱に流れた、縦横架構材の接合は柄にばかり依頼することは宜しくない、材料殊に柱を毀損しないで充分に之を密着せしめ、固定的接合を得るに努め

ねばならぬ、之が爲めには鐵物殊にボルトを盛に使用するを可とする、木造家屋は二層三層の場合には階下が最も危険であるから殊に茲に注意せねばならぬ。構造の手法を詳述することは餘りに専門的に流るゝから略するが、只特筆して置きたいのは、筋違のことである、木造家屋の耐震的手法中、最も簡にして最も有效なるは、筋違を盛に使用するにある、筋違は耐震的に有效なるのみならず耐風のにも亦最も有效である。和風家屋にても適用し得る事勿論である。又序に一言して置きたい事は洋風木造家屋の煖爐及び其の煙突のことであるが、決して煉瓦を以て築造してはならぬ、中位の強さの地震にても折れて崩れる、日常の小震にも龜裂の恐がある、其の結果、知らぬ間に火災を起すことが珍らしくない、煉瓦に代ゆるに鐵筋コンクリートを以てすれば安全である。

煉瓦造家屋は硬質の地盤上にありて壁の長さ(交叉壁間)餘り長からざる(凡そ三十尺以内)場合には之を耐震的ならしむることも出来る。下層の窓を餘り大きくしない限りは三層位にはしても宜しい、層數よりは寧ろ壁の長さの増加に伴つて困難の度が激増する、又軟弱の地に於ては不同沈下を起して災を増大することがある、軟地に大なる煉瓦造を營むことは甚だ宜敷しくない、寧ろ鐵筋コンクリート造となすことを勧めめる。

煉瓦造の崩るゝや、常に上部即ち壁體の頂上から初める、故に最上層は危険が多い、此の點は木造と反對である、煉瓦造の壁の頂上又は層の界の邊に鐵筋コンクリートの桁を置くことは耐震的に効果が著しい、煉瓦造の壁體に石材を混用することは、一見堅固らしき感を與へるけれど

も、實は反對で、却て甚だ不可である、殊に石の柱形や隅石などを上部に置くことは避けたい。

鐵筋コンクリート造は最も多くの場合に於て最も經濟に且つ最も容易に之を耐震的ならしめることの出来る構造である、壁の長さこと地質の軟強なること、窓、入口の大小なること等を少しも嫌はない、蓋し本邦に最も適當した構造といふべきである、注意すべきは施工の眞面目であるべきことである。

總じて建築敷地は硬質なるを可とする、泥地又は埋立地の如きは震動も大きいし、不同沈下から來る思はざる災害も起り易い、又斷崖の上は避けたい、基礎は深くして堅實に築造せねばならぬ、建物の形は成るべく單純にして四方上下に凹凸少く意匠は一般に質素なる方が危険が少ない。

大正十四年二月廿五日印刷  
大正十四年三月九日發行

有所權版



住宅論

◇定價二圓八十錢◇

著者 佐野利器

發行者 福永重勝  
東京市東區區府金大町九番地

印刷者 渡邊吉郎  
東京市東區區府澁山町五番地

發兌

東京銀座新橋際  
振替東京三三五二

文化生活研究會

東京女子高等師範學校教授 近藤耕藏著  
**家庭物理學 十二講**

この書は主婦の方々が主婦の仕事に興味を持たる人々に精讀して貰ひたくて書いた特殊の物理學である。家庭生活を合理的に行ふ爲に化學の助力が必要なるものは多くの人に依つて認められて居る。けれども夫れに數倍した程度に於いて物理學の助けが必要であることは之を認めてゐる人が割合に少ない。之は實に残念なる誤りであると思ふ。こんな残念な誤りが普及して居る所以の第一原因は、物理學を云ふもの、書き方にも依るであらうと思ふ所から出来る丈夫易にそして何人にも讀んで直ちに應用が出来るやうにこの主旨で書いて見たのが本書である。(著者) 定價一圓五十錢 送料書留十五錢

大阪市技師 椎原兵市著  
**現代庭園圖說**

庭園はその發達の歴史に鑑みてはわかるが、もごとく建築と相並んで進歩して来た一種の象形藝術である。だからその時代々々の人類生活と其の時代思潮とに相應した調律的の表現なり發達なりがなければ眞當でない。近代建築に就

ての一家言は數限りもなく見受けられるが、庭園に關しての研究なり考察なりが一向に振はなぬのは甚だ遺憾である。本來造園の術は、建築や其他の技術の如く、單に理論や法則だけでは如何にもしがたいもので、科學的の智識もより必要ではあるが、主として、人の常識と興味性によつて其表現が個性的であらばならぬ。其處に庭園の著書の少ない原因は、又澤山に出なければならぬ理由が含まれてゐるので、はなからうか？。著者はかかる立場に立つて、第一禁苑の部、第二日本名園の部、第三住宅及び別荘の部、第四公園其他の部、第五外國名園の部、等に分けてその實景と設計圖を示して解説し、更に第六庭園建造物に於て和洋部分的造營物を解説してゐる。 定價八圓五十錢 送料書留四十五錢

**月刊文化の基礎** 毎月一回

從來本會より發行して居りました『文化生活の基礎』は新年號より『文化の基礎』と改題して内容外觀共に一新、大發展致すことになりました。何卒倍舊の御愛讀の程お願ひします。 定價一冊三十錢 六ヶ月一圓七十錢 送料書留十五錢

**第一外國語學校編纂**  
**英語研究苦心談**

叩けよ、さらば開かれん  
英語熟達の秘訣は此一書に在り!

- 英語研究苦心談  
HOW TO LEARN ENGLISH
- 第一外國語學校校長 村井知至
  - 衆議院議員 植原悦二郎
  - 私の 經 驗 商科大學教授 山口鏡太
  - グリーンの外國語習得法 早稲田大學教授 安部磯雄
  - 英語研究の根本 元高等師範教授 鹽谷 榮
  - 英語の綴字發音語原等に就て 早稲田大學教授 岸本能武太
  - FIRST READING 外國語學校教授 吉岡源一郎
  - 英語學研究の注意 外國語學校教授 熊本謙二郎
  - 英語學研究 第一高等學校教授 森 卷 吉
  - 活きた言葉の學び方 第一外國語學校副校長 岡田實麿
  - 如何にして英語を學ぶべきか 東京朝日編輯長 杉村廣太郎
  - 如何にして英語を學ぶべきか 東京朝日編輯長 杉村廣太郎

英語研究の科學的方法  
英語發音の科學的研究

商業英語に就て 第一高等學校教授 井上藤藏著  
定價一圓九十錢 書留送料十五錢

**楽しいゲームの遊び方**

- 井上藤藏著 定價一圓二十錢 送料書留十二錢
- 室内遊戯 紙上散步 豆運び 熱心な
  - 名判断 結婚紹介 片目の仕事
  - 師のクサンタクロース 春が来た
  - 戸外遊戯 帽子投げ 郵便局
  - カチ取り競争 飛行機乗り
  - 試等三十二種 狐の穴
  - 考案遊戯 二ツチ遊び 算術遊び
  - 十一種 文字と談話遊び 女の罰等三

こはれは素敵！と少年少女に達  
悦ばれば、今評判の遊戯六百種

讀新新聞曰く今まで餘り新しい家庭に  
は知られてゐない西洋の新しい遊戯が  
百六十餘種も紹介してある全く新しい  
向きの珍趣向ばかりである點が嬉しい



# 文化人の書架に

★ ★ ★ ★ ★

文化學院長 西村伊作著

## 我子の教育

著者は八人の子供を缺かす事なく立派に育て上げ特に長女アヤ子さんは十一歳で、「ピノチヨ」を著し、長男久二君は十二歳で二科展に「ペランダ」を當選して、世の親達に天才教育の疑問を投げつけた。其後著者は私財を投じて文化學院を創立し、益々世の視聽を引きつゝあつたが、突如「私はかく愛兒を教育する」との眞相を吐露して世の疑問に答へた。我子を教育する時に眞正の教育がある。自分が笛を吹く時、それにつれて第一に踊り出すのは我子である。如何に我子を教育するかは、先づ親達が如何に正しい思想に生き、善き生活を生活するから出發せねばならぬ。本書は我子の教育であり同時に親爺教育である所に新時代の「バイブル」として熱讀される所以がある。  
\* 定價一圓八十錢 送料書留十五錢

文化學院長 西村伊作著

## 現代人の新住家

著者の處女作「樂しき住家」が世に出た時、主人は有産階級の建築道樂と誹謗したが、不思議や自己の生活を愛する人達に知己を得て彼の實せる新住家の建築は澎湃として勃興して來た。遂に専門家も密に其書を書齋に備へればならなくなつた。今日では既に幾多の類書が世に出たが、未だその何れもの追従を許さない適切な言葉に満たされ、現代人の生活を指導する幾多の要素が盛り込まれてゐる。然るに「樂しき住家」の原稿は震災に焼失したので、今回新たに改訂増補し、挿畫は全部新しくして此書を出すこととなつた。設計、様式、室内、庭園、門、塀等に關して現代人の生活に立脚して如何なる家を作る可きかを簡潔に説き、同時に如何なる心持で生きる可きかを暗示した永久に役立つ書である。  
\* 定價二圓八十錢 送料書留十九錢

文化學院長 西村伊作著

## 生活を藝術として

著者は紀州の山村に育ち、若くして歐米に旅し、巨萬の世襲財産をうけ嗣ぎながらコスモポリタンだ。種黨は彼を悦ばぬ、彼が傳統の破壊者だからである。彼は自ら設計した家に住み、自ら改良した服装をつけ食物にまで一種の理想をもつ。彼は純然たる歐化主義者でもなければ又、元始生活への還元を悦ぶ者でも無い。十數年間、凡ゆる非難攻撃をうけながら黙々として新生活様式を創造して來た。世間は彼の理想を空想の花と誹つたが、空想十年にも實が結ぶ。時代は藝術的生活創造の衝動にぞよめいてゐるではないか。此書は新世紀への轉機に立つて新生活の創造をなさんとする人達への、最高のプランであり啓示である。寫眞版凸版十二葉。定價一圓八十錢 送料書留十五錢

\* \* \* \* \*

文化學院長夫人 西村光惠子著

## 子供服の新しい型とその裁ち方

日本人の子供に似合ふ西洋の新しい型。日本の子供の體格に合せて

定價 二圓五十錢 送料 廿一錢

西村アヤ子著

## 童話ピノチヨ

實際着せて見て研究した裁ち方眞似損つて西洋人に笑はれないやうに善い趣味で可愛らしくて輕快なそして最も簡単な裁ち方で最も仕立易い子供服を作らんとする人のために最も進んだ参考書……教科書

\* \* \* \* \*

此書はアヤ子さんが十歳の夏から十一歳の秋にかけて書き上げた長篇童話です。著者は小さい弟妹達と共に夕食後お父さんからお話を聞くのが唯一の楽しみでした。ピノチヨはお父さんから聞いた伊太利のお伽噺ですが、毎夜その續きをごんごんに待ち兼ねたことでしやう。其噺の終つた後、アヤ子さんは厚い雜記帳に思ひ出す儘に其お話を書き初めました。處々へ面白くピノチヨの繪を入れて。それはお友達や全國の少年少女達にこの面白いお話を知らせたいと思つた故です。文章の上手なことを、繪のうまいことは専門の文士畫家も驚いてゐます。兒童藝術の先驅として少年少女の必讀書であります。定價 四六版著者裝釘插畫 原色版寫眞版十葉 送料書留十三錢

女子大學教授 佐賀房子著  
生長に こそごも 服

こごも服の理想は少年少女を肉體的發達に導き更に兒童の審美感情を養ふものでなくてはならぬ。著者は女子大學に育兒學を講ずる人、其専門の立場より洋服、和服、支那服、南洋服に就て研究を重ね、更に自ら愛兒の幼き願ひこそ若き母の望みを一身に體して著したのが本書である。男女兒別の上着、下着、外套、遊戯服、寢着は勿論、それに適はしい帽子類の作り方から、それに必要な布地の撰み方、美術的な配色や意匠の仕方、又女として是非心得べき科學的洗濯手入れの仕方に至る迄細大漏さず説き盡してある。菊判三百四十頁洋布裝原色版六葉凸版三百餘個 定價三圓 送料書留廿四錢

女子大學教授 手塚かね子著  
滋味に 家庭向西洋料理

西洋料理は贅澤なものだ云ふ觀念は過去の思想であつて、著者の實驗によれば、洋風料理は最も簡單で榮養に富んだものが多い。それ故西洋料理は榮養料理と云ひかへてもよい位であ

る。此等の料理を一般家庭に應用することは食物の範圍を廣め、食味を増すばかりでなく、國民の體質問題解決の上にも重大な關係を及ぼすものである。

此書は最近の調理學を基礎として魚肉類・穀類・果實・飲料・菓子類・其他日常食品萬般に亘つて、出来るだけ技術を簡易にし、且つ精練したものを配列した。そして何人にもわかるやうに説明の平易親切を盡してある。一般家庭の主婦のためのみならず、女學校割烹科の參考書として絶好の書である。

定價三圓 送料書留廿四錢

女子大學教授 手塚かね子著  
西洋料理の正しい食べ方

私達の生活に於て和洋融和といふことは本當に出来てはゐません。西洋料理が私達の生活に取り入れられる様になつてから久しい年月を経ても、解つてゐるやうで随分間違つたことを平氣でしてゐる人も多いやうです。秩序を保つところに美もあり禮節もあり相互の愉快さもあると思ひます。西洋料理の正しい食べ方を今更習はなくともいふと思ふ人もあるかも知れませんが、この書は正饗、立食、リセプション、

茶話會等に關する一般のことは勿論、接客の方法、室内の裝飾と云ふ方面にまで説き及ぼしてあります。菊中裁布裝函入 寫眞版十六葉入 定價一圓五十錢 送料書留十三錢

三宅やす子著  
我子の性教育

「近來性教育といふことが盛に云はれ初めたけれども、多くの母といふ位置にある人が、大抵は其責任に當る事を恥ぢたり、億劫がつたりして「我子と共に」性の問題に關する事を避けようとする傾向がある。私は、それを一番我子に不忠實なものとして、ごこまで、性教育が絶対に母の責任であることを直言してやまない。……著者はその序に述べてゐるが由來性教育は難事である。其處に若き母達の苦心がある。著者は少女時代の體験と現に三人の愛兒を導きつゝある實感から、特に同性のため最大の勇氣を以て科學的に情操的に此難問題を解説した。藤谷紅兒裝釘 定價一圓八十錢 送料書留十五錢

三宅やす子著  
未亡人論

多幸な新婚の宴が、總て悲愴な有髮の尼の境遇に突落される第一歩であること、幾人の女性が豫期しやう。ラブ・イズ・ベストも彼女達の前に載はれたる死語だ。死を知つて始めて生の意義の深さを知る如く、未亡人問題を念頭に置いて、始めて結婚も戀愛も本當の意味に理解されるのだ。今まで闇にあつた問題を、著者自身の實感から明るみにさらけ出して、凡ゆる女性の反省を求めたのが本當である。

往けよ此書！處女、人妻の夢を破り、未亡人の胸に巣くふ陰鬱を爆發させ、至高の性道徳建設の導火線たらんために。

定價二圓 送料書留十七錢

ヴォーリス著  
吾家の設計

ヴォーリス氏は日本に在住二十年、邦人を妻とし、天才的建築家として、又近江の使徒として有識階級の尊敬を受けつゝある人。氏の設計監督になる京濱間の建築が、昨秋の關東地震に大被害なく、今尚巍然と残存することに、設計委員より多大の感謝を送られつゝある。これ氏が單なる工業家でなく、その燃ゆるが如き信仰がその建築の中に打込まれてゐる故であ

る。本書は昨年初夏、諸家の需めにより、寢室と臺所を本位とした文化住宅の設計法に就て著したものであるが、今回更に、中流住宅と小賣商店の耐震耐火の設計を加へて、普及版として世に送ることとなつた。建築復興の時に際し、敢て江湖の精鑑を待つ。設計圖寫眞版四十七葉 定價三圓 送料書留十八錢

**W・M・ヴォーリス著 内村鑑三序 吾家の設備**

數奇を凝らした文化住宅も内部にこれに伴ふ設備の整はぬ時は、あなたの生活は決して生かされたとは云へぬ。又親ゆりの古家に住んでも設備の如何に依て其生活は完成され新にされる。既に「吾家の設計」を著して現代人は如何なる家を建築すべきかを説いた著者は、更に本書に於て、食堂・臺所・寢室・居室・書齋・圖書室・客室・玄關・應接室・子供室・女中部屋に亘り新時代に應じし設備を説いてゐる。徒らに高價な設備を誇る時代は去つた。美と實用、科學と藝術とを結ぶ所に著者の天才は輝いてゐる。より其き設備によつて、理想的新生活を營まんことを欲せば本書に就かれよ。設計圖寫眞版四十餘葉 定價二圓八十錢 送料書留十九錢

**林學博士夫人 上原靜子著 家庭園藝と庭園設計**

一莖の花に自然を讀み、一啣の果實に宇宙の呼吸を聽く自然人の悦びに浸らんとして、一坪の土、一間の籬をも生かさんとする家庭園の知識は近來都市田園を通じて熱烈に要求されてゐる。著者は新知識を世界に求めた女流園藝家であり、現に目黒の閑居に、夫君上原博士と共に園藝の實際を樂しみつゝある人。特に時代の要求に添はんとして其蘊蓄を傾倒して、前庭、芝生、樹林、花壇、果樹園、子供用庭園の造方から、更に趣味ある四季の草花、美しい果樹、家庭に役立つ藥草の栽培法に至る迄、素人にも解るやう親切に詳説した。自己の生活を愛し、自然を愛し、自然の育ぐくむ創造の世界に、一家團樂の悦びを欲する人は本書に就かれよ。四六判二百七十頁布裝 原色版一葉寫眞版十八葉 定價二圓二十錢 送料書留十七錢

**林學博士 田村 剛著 家庭に庭園の知識**

從來の日本の庭園はそれ自身立派な藝術では

あるが時勢の推移はさうした茶人向の趣味的なものから、文化生活に適する實用的なものに解放されるべく要求されてゐる。世界の庭園に就て深い研究を有する田村博士の本書は、庭園の意義から出發して、其の沿革及改善を要する條件及び設計材料等より、庭園と家庭、社會と公園との交渉を説き、更に代表的庭園の寫眞及び設計を挿入して、從來の職人まかせ庭園を、家庭の主人主婦の趣味と嗜好の下に設計、並に手入れする案内書たるを期してゐる。四六判布版寫眞裝十四葉 設計圖二葉入 定價一圓八十錢 送料書留十五錢

**賀川 豊彦著 愛の科學**

愛は私の一切である。愛は私の藝術であり、科學であり、宗教である。愛は私の祭壇であり、運命である。愛が私を貧民窟に呼び寄せ、私を監獄に導く。十字架の上で愛が私を待つ。愛は最も大膽な革命兒である。愛は權威と強力を蹂躙して延び上る。愛は背ける兒を母の懷に返し、亂れたる夫の魂をその妻に引戻す。愛のみ死に勝つ工夫を知る。私は日本が愛の飢饉に會つて

ゐることを知つた。愛の蒸發した日に勞働は苦難に變じ、結婚は共同墓地に變る。あゝ行詰れる日本よ、愛に甦れ！愛は最上の富であり、最終の救濟者である。愛のみ解放し、愛のみ贖ふ。愛は創造し、愛は産む、愛は最大の生産者である。あゝ愛が私の魂に目醒める。愛は宇宙の雷である花である……著者。四六判四百九十頁總布裝釘天金函入著者近影一葉入 定價三圓 送料書留十九錢

**有島武郎遺著 生活と文學**

本稿は一ヶ年に亘り文化生活研究に連載され限られたる會員にのみ配布されしものにして、未だ一般讀者に見ゆるに至らず昨秋の震災に際し稿本の焼失を疑はれしが、最近に至り著者自ら校訂朱稿せる原稿の劫火を免れたるを發見された。由來生活と文學の交渉は著者の最も熱意をそそぐ研究對象にして、又現代生活の砂漠を歩んで藝術の奥堂に徹し、藝術を説いて深く社會人生に觸れた著者にして始めて論じ得る問題である。今や文壇其人を失ふて寂寞を感ずる時、

本書出で、故人の懐しき面影を語るであら。肖像・原稿・タイプ二葉 定價一圓二十錢 送料書留十三錢

### 田邊 尚 雄 著 現代人の生活と音楽

音楽は人間の感情を最も直接に且つ抽象的に發表し得る唯一の藝術である。今日の理智的な懷疑的な文明時代に於て、この偏執的疾患を救済し得るものは、寔にその眠れる人間の情緒を呼び醒し、枯淡に對して潤色を與へる藝術的音樂でなくてはならぬ。本書はこの見地より現代人の生活を豊富にする音楽は如何なるものであるかを論じ、更に「音楽の組織」「音楽を奏する」と「作曲を作る」とに就て最も親切平易に詳説した。卑しくも近代的空氣に生きんと欲する者の必讀書である。

定價一圓八十錢 送料書留十五錢

### 田邊 尚 雄 著 家庭に蓄音機の知識

近來の藝術的音樂の普及につれて、蓄音機を

正當に理解する必要が、いよ／＼深くなつた。これの巧妙なる應用によつて、我等は居ながらホルマンにもクライスラーにも其他全世界の樂聖達の藝術に接することが出来る。本書は家庭で蓄音機を用ひる場合に必要な知識即ち、蓄音機の構造、レコードの造方、吹き込み法、針の撰び方、機械の取扱ひ方、その應用法、歴史等に亘つて、詳細に説き及んだものである。蓄音機のある家庭には是非一書を備ふべき好著である。

定價一圓五十錢 送料書留十五錢

### 誰か狂へる

醫學博士 杉田直樹 著  
日々の新聞紙を讀む人は、毎日に社會に喧えて行く犯罪や自殺、精神病や神經衰弱や、悽愴陰慘な三面記事に怖氣を感じないわけに行かない。實笑婦や不良少年少女のやうな頽廢した社會の副産物や、婦人問題、勞働問題のやうな時代と共に遷る思潮の變革や、之等は單に社會の事相として如實に見てゐるよりも、精神病學の立場から、細い管を通して覗いて見た方が却つて面白い徹底した觀察が得られると思ふ。本書は一人の精神病學者が、之等の社會事實を眺めつゝ隨感を書いたものである。四六判三百二

十頁フランス式紙裝定價二圓送料書留十五錢。

### 理學博士 中村左衛門太郎 著

### 地震

關東の大地震に依つて、地震云ふ事が一般の注意を引くやうになつた。然し地震の本云ふものは至つて少ないので、兼てから私も何か書いて見たいと思つて少し宛準備してゐた。その準備も地震に次ぐ大火災で一塊の灰と化した。しまつて参考にするべきものは全く失つてしまつた。それで私の二三年來企てゐた『理論地震學』の本も一寸手が付けられない事になつてしまつた。然し幸に友人石川高見君や中野廣君等から借用した書物と僅に救ひ出した少數の本を参考とし、今回の大地震に得た經驗を基としてやつたこの本を書き上げた。内容は成るべく數學等を用ひないやうにして、一般的に小學校や中學の先生の参考にも多少成るやうに心掛けた。この書は小さなものであるが、これだけの内容でも昔から幾百萬の尊い犠牲を拂つて得た結果かと思へば一日も此研究が等閑には出ない云ふ事が今更乍ら思はれて來ます。丹澤山踏査より歸つて……著者

四六判總布裝函入 寫眞版石版凸版六十葉 定價二圓五十錢 送料書留十九錢

### 京都帝國大學病院 小兒科看護婦長 高橋ミチ子 著 學理に基く 新育兒法と看護の仕方

醫學博士 谷口清一先生曰く

著者高橋ミチ子氏は、京都帝國大學醫學部小兒科創立當時より同科の看護婦長として二十一年の如く其職を奉ぜらる。其間絶えず、小兒科の泰斗平井先生の膝下にあつて、其薫化を受け、小兒衛生乃至看護に關する造詣淺からず。一方社會の實狀に觸れ育兒思想の缺陷が屢々不幸を齎らす事實を目撃し、育兒思想の普及が一日も勿にすべからざる事を痛感し救世の一事業として著書に志されしより茲に年あり。今本書成るに及んで之を通覽するに其内容豊富にして注意の綿密なる専門醫と雖も驚嘆の辭を禁ずる能はざるものあり。即ち小兒の發育状態より論を起し、哺育衛生にその蘊蓄を傾け、進んで小兒期に於ける各疾病と之に對する手當を記述する事可憐懇切を極む。此書一たび世に出でんか、忽にして市井に傳播し保護者の不注意に因る乳兒、幼兒の死亡乃至疾病は一朝にして、その跡を絶たん、敢て序

定價三圓 送料書留廿四錢

佐伯美津留序 佐々木諦著  
無線電話の基礎と其應用

理學博士宗正路氏曰く「從來此の種の書物は、たゞ素人のために機械の組立法のみを説くに急であつたが、佐々木君の本書は、その據つて來る處の基礎學を徹底的に説き、而してその應用として構造組立法に及んでゐる。知識に目醒めた近代人、殊に眞のレディオファンにとつては絶好の参考書であるのみならず、一般科學知識普及のためにも適當な指導書であることを斷言するにばゞからない。」

四六判二六〇頁背洋布 定價二圓二十錢  
寫眞版凸版百二十葉入 送料書留十七錢

加藤正徳編 巖谷小波序 後藤末雄跋  
フランス童話集

佛蘭西の有名な「ラルース」少年叢書から優れで面白い又充分教養にもなる名作十數篇を選抜して譯したのである。フランスの國民性も解り勤勉さふ事があるに大切なことか、親の光で慢心する事があるに馬鹿氣てゐるか、親の明や發見がどんなに愉快なことか、さうした訓

へも快絶なこれらの童話から納得せられる。而も低級であきくするやうな所謂教訓童話とは全く面目を異にし爽やかな新鮮味がどの頁にも溢れてゐる。(讀賣評)

四六判三四七頁天金函入 定價二圓  
三色版石版凸版四十五葉 送料書留十七錢

四邊八重子著 田邊尙雄序  
家庭踊りの踊り方

家庭踊の由來と組立法を説き、更に、「春の爛生」「一つさや」「津の國」「梅は咲いたか」「歌かるた」「番外伊那節」「番外木曾節」等を、樂譜と舞踊圖に依り、懇切に圖解した。秋の夜長に一家團樂の清き趣味に生きんとする現代人の必讀書である。

舞踊團樂譜二十葉 定價一圓五十錢  
著者裝釘總洋布裝 送料書留十五錢

徳富健次郎編  
太平洋を中にして

復興更始、第二維新に臨む勳勃の意氣と力強い自覚を拉々雑々の中に分明に看取し得ない者は眼あつて見ず耳あつて聞かぬウツケ者である。日本はこれからだ、世界がこれからであるやうに。  
手荒い米國の排日に對し、血氣の日本は大分初心の叫びも擧げた。然し其等騒音を分けて、堂々と正大な日本の本音が徐に莊重に而して眞撃に響かすには止まなかつた。其粹を集めて「太平洋を中にして」は成つた。筆者は知名無名の士。論文、感想、詩あり、散文詩あり、邦文の中に英文も收められた。時の要に各がじし鳴り出たかりそめのやうな音は、編者の手にまごめられて永久性を帯ぶる交響樂となつた。日本聞き、米國も聞き、世界も聴かればならぬ太平洋の太平洋である。  
太平洋を中にして、日米が闘する。太平洋の太平洋は日米の心にある。而して太平洋の太平洋は、やがて四海の太平洋に及ぶ。  
西に倫敦會議の成功を以て閉づる時、東に「太平洋を中にして」が出づるも偶然でない。  
四六判三百四十頁 定價一圓五十錢  
送料書留十七錢

永井博士序 木村俊臣著  
感覺・時間及び空間

感覺と時間と空間と、是れ實に人間思索の最も奥の源泉であり、人生觀・世界觀の根本の基調をなすものである。而も哲學者之を想ふ時、動すれば理に偏し科學者之を考ふる時、往々物に即し、正中を捨する、こゝは難入する所である。本書の著者は、明敏の識と、書膽の見とを以て、よく洞察批判し、哲理より入りて而して煩瑣に陥らず、科學より稽へて而して卑近に失せざる、恰も清冽澄水の峽水が、哲學・科學兩嶺の間を縫ふて混々として進み行く處、巖花紅燦ゆるが如く、綠樹翠滴るが如く、あらゆるものに命を思ふを與へて止まない様な觀がある。眞純なる識の士は、本書を讀んで、必ずや大に共鳴する。本書は、著者の信じて疑はない。必すや大に共鳴する。あり、著者の血と魂とを傳へて居る。著者は彼この書を奇與せんが爲に世に生れ、而して又世を去つたのである。  
醫博學士 永井 潜  
四六判三百餘頁 定價二圓二十錢  
背クローリス上製 送料書留十七錢

22405  
ぬ

◇ 吉野作造著作集 ◇

第一輯 新井白石とヨワン・シローテ

定價 一圓二十錢  
送料 書留十三錢

東京朝日評「鎖國の日本に突如姿をあらはして布教せんさ透々ローマから来たヨワン・シローテを糺問したのは白石であつた。これが端なくも洋學の行はるゝに至つた大なる刺戟をなしたので、日本の文化史を研究する者の見逃すべからざる事件である。本書は吉野博士が各種の文獻を漁つてその史實を明かにした研究で、興味津々つまらぬ小説なごよりもすつと面白い。なほ耶蘇教關係の書物の解題をなせる間に著者の鋭鋒は著はれざるを得ず、甚だ痛快なるものがある。」

第二輯 露國歸還の漂流民幸太夫

定價 一圓五十錢  
送料 書留十五錢

大阪毎日評「漂流民御覽の記」といふ寫本によつて傳へられた事實を碎いて書いたもので、荒唐無稽の講談のやうではなく、ほんたうにあつた話を、元帝國大學教授法學博士によつて再話されるのであるから、その政治論、政策論もその間にちよい／＼出てゐて面白い。「昔の人の西洋觀」「排外思想」「維新前後の國際協調主義者」「書架の前にて」等、殊に排外思想については序文でちやん／＼、これは「うつかりマツソン祕密結社などいふ大べら棒な愚説に耳傾けるな」といふ諷刺だと斷つてある。何にしても考古的な面白い讀物である。巻末に索引が十頁もついてゐるところは、流石に學者の著作である。」

第三輯 斯く信じ、斯く語る

定價 一圓八十錢  
送料 書留十五錢

本書は博士の根本的立場を表明する感想録にして、温潤雄健なる思想と流暢明快なる筆致とに相待て、唯に現代新人の指針たるものであらう。著者も亦此書の公刊に依りて社會教育家たるの任務の一端を盡し得たと自任してゐるやうである。

535

94

終

